

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2009年10月)

発表日 2009年12月21日(月)

～改善傾向は継続～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 小杉 晃子  
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
08	1-3月	▲0.1	0.2	0.0	0.6	0.3	2.4	▲0.2	▲0.7	▲0.6	▲9.9		
	4-6月	▲0.8	▲0.9	▲0.4	▲0.5	▲1.3	0.8	▲0.8	▲1.4	▲2.3	▲11.8		
	7-9月	▲1.3	▲1.7	▲0.9	▲1.2	▲3.2	▲1.4	▲0.8	▲2.4	▲0.8	▲8.4		
	10-12月	▲2.7	▲5.0	▲1.7	▲3.0	▲11.3	▲14.5	0.6	▲1.1	2.7	▲0.9		
09	1-3月	▲6.2	▲11.1	▲3.1	▲6.5	▲22.1	▲34.6	0.0	▲0.4	▲0.6	▲1.1		
	4-6月	0.4	▲9.6	▲0.7	▲6.3	8.3	▲27.8	▲0.5	▲0.6	▲1.3	0.1		
	7-9月	1.1	▲7.4	0.5	▲5.0	7.4	▲20.1	0.6	0.7	▲6.9	▲6.4		
08	1月	0.2	0.3	0.2	0.7	0.5	3.1	0.3	▲0.8	0.1	▲10.2		
	2月	▲0.1	1.4	0.2	1.9	0.5	5.3	0.1	▲1.7	▲0.6	▲10.0		
	3月	▲0.7	▲1.1	▲0.5	▲0.6	▲1.3	▲0.7	▲0.3	0.4	0.1	▲9.5		
	4月	0.0	▲0.1	0.2	0.5	▲0.6	1.8	▲0.4	▲2.1	▲1.0	▲10.5		
	5月	0.0	▲0.9	▲0.2	▲0.7	1.2	0.9	▲0.2	▲0.8	▲1.4	▲12.1		
	6月	▲0.9	▲1.6	▲0.6	▲1.2	▲2.0	▲0.2	▲0.1	▲1.2	▲0.8	▲13.0		
	7月	0.1	▲0.3	0.3	0.2	▲0.3	2.3	▲0.6	▲2.6	▲1.2	▲13.0		
	8月	▲1.0	▲3.6	▲0.9	▲2.8	▲3.1	▲7.2	0.0	▲0.8	1.9	▲8.2		
	9月	▲0.5	▲1.2	▲0.3	▲1.0	0.1	0.4	▲0.2	▲3.9	0.6	▲4.0		
	10月	0.2	▲2.5	0.0	▲1.6	▲3.4	▲6.6	0.6	▲1.4	1.2	▲1.3		
	11月	▲2.1	▲6.1	▲0.9	▲4.2	▲7.0	▲16.5	0.1	▲0.1	0.3	▲1.5		
	12月	▲2.5	▲6.3	▲1.7	▲3.3	▲8.4	▲20.7	0.1	▲1.8	0.6	0.0		
09	1月	▲1.2	▲8.9	0.5	▲4.3	▲10.1	▲30.9	▲0.9	▲1.1	▲1.3	▲1.5		
	2月	▲3.3	▲12.4	▲2.0	▲7.3	▲9.4	▲38.4	1.3	0.8	0.6	▲1.1		
	3月	▲1.6	▲11.8	▲2.7	▲7.7	1.6	▲34.2	▲2.7	▲1.0	▲0.5	▲0.9		
	4月	2.2	▲10.1	2.0	▲6.3	5.9	▲30.7	▲1.4	▲1.4	0.8	1.0		
	5月	0.5	▲10.3	▲0.4	▲7.3	5.7	▲29.5	1.1	0.8	▲1.5	1.0		
	6月	0.1	▲8.3	0.2	▲5.3	2.3	▲23.5	▲0.7	▲1.3	▲2.8	▲1.3		
	7月	0.5	▲8.3	0.5	▲5.5	2.1	▲22.7	0.5	0.3	▲3.2	▲3.5		
	8月	0.9	▲6.7	0.3	▲4.4	1.6	▲19.0	0.0	0.4	▲1.2	▲6.4		
	9月	▲0.7	▲7.2	▲0.6	▲5.1	2.1	▲18.4	0.6	1.4	▲2.1	▲8.8		
	10月	1.2	▲6.4	0.5	▲4.7	0.5	▲15.1	▲0.4	0.9	▲0.9	▲10.7		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

## ○ 全産業活動指数：前月比+1.2%

10月の全産業活動指数は前月比+1.2%とコンセンサス(同: +1.0%、レンジ: 同+0.3%~+1.3%)を若干上回った。鉱工業生産指数の改善が続いていることに加え、第3次産業活動指数も2ヶ月ぶりにプラスとなった結果、全産業活動指数は2ヶ月ぶりのプラスとなった。輸出や生産の回復を背景に全産業活動指数の改善傾向は継続しているといえよう。

内訳をみると、プラスに寄与した指数は第3次産業活動指数(前月比寄与度: +0.34%ポイント)、鉱工業生産指数(同: +0.08%ポイント)、マイナスに寄与した指数は公務等活動指数(同: ▲0.05%ポイント)、建設業活動指数(同: ▲0.04%ポイント)であった。

## ○ 鉱工業生産指数、第3次産業活動指数は改善傾向、建設業活動指数は悪化が続く

個別にみると、第3次産業活動指数は前月比+0.5%と、2ヶ月ぶりにプラスとなった。前月のシルバーウィーク効果の反動などから家計部門の活動は悪化したものの、ソフトウェア受注が持ち直したことや輸出、生産の回復などによって企業部門の活動が改善したことがプラスに寄与した。

鉱工業生産指数は前月比+0.5%と9月(同+2.1%)に比べ増勢は鈍化したものの、8ヶ月連続でプラスとなった。世界的な在庫調整の進展や海外の経済対策効果による輸出の回復が生産の押し上げにつながった。

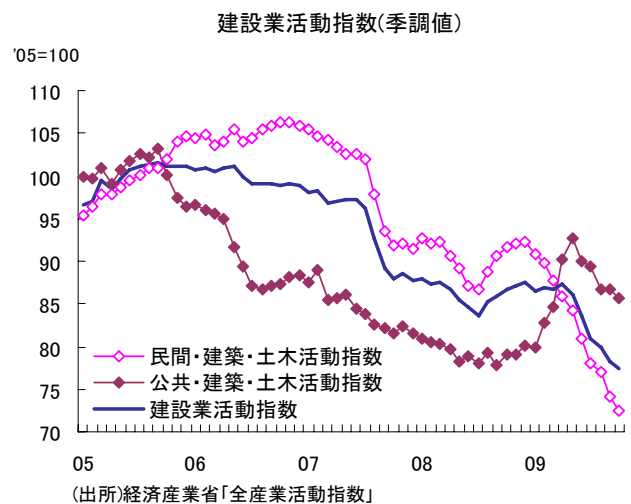
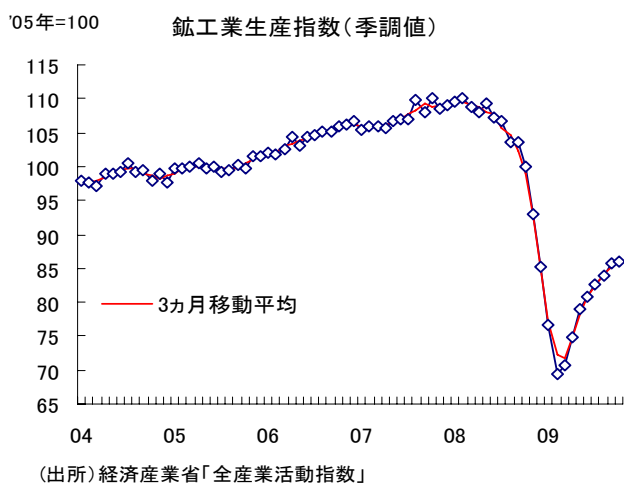
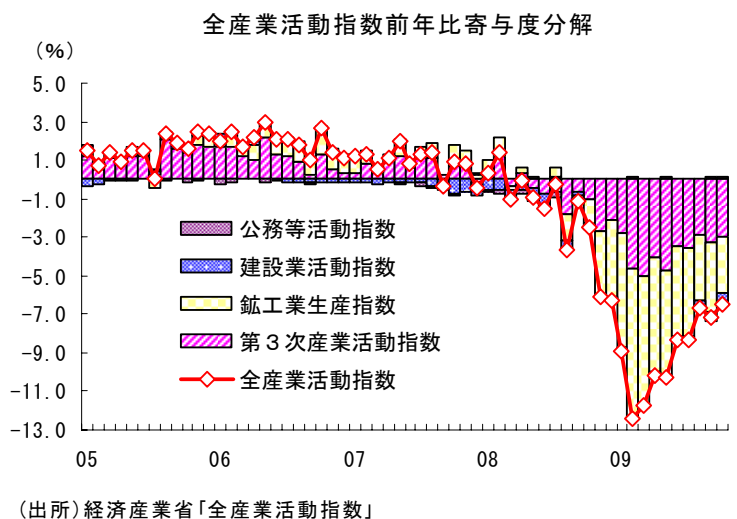
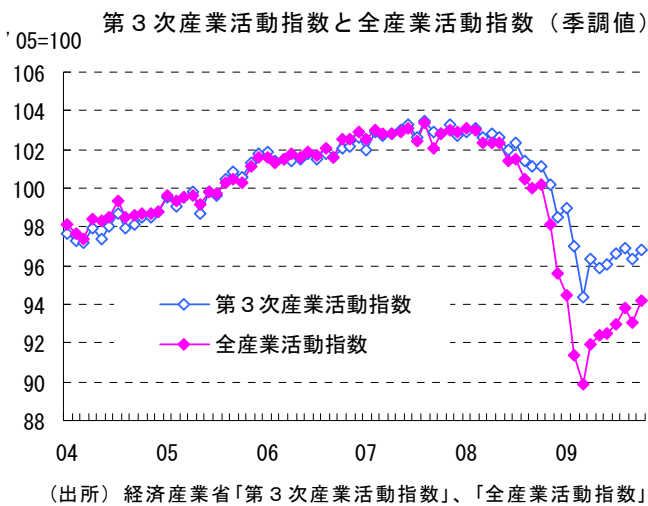
一方、建設業活動指数は前月比▲0.9%と、9月(同▲2.1%)からマイナス幅は縮小したが、6ヶ月連続でマイナスとなった。公共・建設・土木活動指数は、前月比▲1.2%(←9月:同0.0%)と2ヶ月ぶりにマイナスとなった。また、民間・建設・土木活動指数も、前月比▲2.2%(←9月:同▲3.8%)と前月からマイナス幅は縮小したものの、足もとの厳しい雇用・所得環境や資金調達環境を背景に住宅投資の減少が継続していることで、悪化が続いている。

### ○ 先行きも輸出や生産の回復を主因として緩やかな改善が続く見込み

全産業活動指数の先行きを展望すると、第3次産業活動指数は、厳しい雇用、所得環境が続くなか、景気対策による押し上げ効果も弱まってくることから、家計部門は回復力に乏しい動きが続くと思われる一方、輸出、生産の回復や企業収益の持ち直しによる企業部門の改善が続くことが見込まれるため、全体では緩やかに改善していくことが予想される。

鉱工業生産指数は、在庫調整の進展によるリバウンド効果が一巡していくにつれ増勢の鈍化が見込まれるものの、輸出の回復が続いていくことで、今後も増加傾向が続くだろう。

以上を踏まえると、輸出や生産の回復を主因として、先行きも全産業活動指数は緩やかな改善傾向が継続しよう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。